

千里救命救急センター

「命の誓」がなくなる?!

暦の上では春になったが、まだまだ底冷えのする3月6日、豊中市の千里中央駅前に、20数名の医療関係者が集まった。

その日のジャンパーに、「橋下知事さんへ、補助金をなくさないで」と大書された横断幕。みなさん元氣よく署名を集め始めた。



豊中市が「救命力世界一」なのも、千里救命救急センターがあるからこそ

小での連続殺傷事件/尼崎・JR脱線 の患者を受け入れ、人命を救う

みぞれまじりの小雨が降り出して寒かったのと、最近「怪しい団体」が募金活動などを行っているので、当初は通行人の反応も冷ややか。しばらくすると、「千里救命救急センターの人？お世話になってます」「えっ、補助金が削られて、なくなるかも知れへんの？それは困るわ。」次々と立ち止まって署名に協力する人、チラシを大事そうに受け取ってくれる人など、約1時間の宣伝で、184筆の署名が集まった。

阪急南千里駅前の千里救命救急センターは、大阪教育大学付属池田小学校での連続殺傷事件や尼崎でのJR脱線事故など、集団災害事故などで、多数の患者を受け入れ、人命を救ってきた「命の誓」である。おとなりの豊中市が「救命力世界一宣言」をしているのも、千里救命救急センターがバックアップしているからだ。

吹田市民のみならず、北摂地域住民の命を救ってきた大事な救命救急センターが、今、存亡の危機に



次々と署名が集まった

それは橋下知事が強引に進める補助金カット。もともとこの病院は、大阪府と医師会が建設し、府の外郭団体が運営する「新千里病院」だった。しかし「財政が足りない」と大阪府がこの病院を手放し、移管されたのが済生会吹田病院。2006年に病院をリニューアルし、済生会千里病院&千里救命救急センターとして再出発することになった。

	救急搬送件数	DC搬送件数
平成18年	4182件	1853件
平成19年	3725件	2005件
平成20年	4332件	2235件
平成21年	4508件	2511件

ドクターカーとは...
医師・看護師・救急救命士が乗り込み救急事故の現場や急病患者のもとへ、直接でかける救急車のこと。24時間体制でスタンバイしている。

教育大付属池田 事故などで多数

「5年経ったのでお金は打ち切りです」。大阪府の一方的な通告。病院の運営費約4億のうち、補助金が3.5億であるから、これは「実質的な死刑」に等しい。3月16日、みんなの願いがこもった請願署名が府議会において否決されてしまった。千里救命救急センター補助金継続

「金がない」からと、補助金3億5千万円 バッサリ削った橋下知事

請願に賛成したのは、日本共産党と社民党だけであった。一方で、橋下知事は4000億円かけて、地下鉄での開闢—大阪間を5分短縮することを計画している。3億3千万円です。それだけの市民のいのちが救われるのか、知事のもとには府民の声は届かなかつたのだろうか。

「福祉なくして成長なし」が、両者とも「成長なくして福祉なし」派であることは同じである。いずれも住民生活よりも、大企業に「選んでもらえる」地域への改造に躍起だ。今日の「格差と貧困」の広がりを招いたのは経済成長最優先の政治だったことは誰もが知っている。「福祉」を辞書(「大辞泉」)で調べてみると、「公的配慮によって社会の成員が等しく受けることのできる安定した生活環境」とある。「福祉なくして成長なし」を理念とする市政、安定した生活環境の確保を吹田地域の経済活性化に結び、責任感あふれる市政への転換が望まれる。



1000人をこえる神戸市電労働者* 大甲山にこもってスト。逮捕された労働者を救済と激励 (1920.昭5年)

勝手に吹田遺産

その17

「蟹工船」の時代 歌で労働者をはげました小代義雄

近年小林多喜二の「蟹工船」があらためて読み返され、ブームとなりましたが、多喜二と同時代に得意の音楽で各地の労働争議をはげまし、戦後は大阪で関西合唱団の結成に参加された人が吹田の泉町に住んでいました。小代(しょうだい)義雄さん(1897年〜1989年)がその人です。

小代さんは東京、青山の生まれで1924年東京音楽学校声学科(いまの東京芸大)を卒業。大阪音楽学校の教授に就任のため大阪にやってきました。

世の中は昭和の大恐慌と治安維持法下の弾圧の時代でもありました。そんななかで小代さんは、農民争議や労働争議の現場に出向き得意の音楽で人々を応援しました。

1928年、共産党や無産者政党が大弾圧を受けた3・15事件の後も危険をかえりみず、労働者が逮捕されたと聞けば警察署の前で抗議の歌をうたいました。

小代さんは「労働者に歌を広げたい」という理由で2度も投獄され、60日間を警察署で過ごしたとい

います。日本が戦争の道をひた走る1932年、活動もできなくなり、戦争中は四条畷学園で音楽教師として生きのび敗戦をむかえました。

軍事国家が崩壊するや、小代さんは活動を開始、1948年関西合唱団の結成に参加。元宝塚歌劇団の作曲家であった須藤五郎さんと共に合唱団の指導、常任指揮者として合唱団を支えました。

この頃、小代さんの歌を直接聞いたという谷垣敏子さん(南清和園在住)は「1954年でしたか、私は電電公社に勤めていて、労働組合の青年部で歌を教えてもらおうと関西合唱団に入りました。第5期生ということで小代先生が常任の指揮者だったところですが「すわりと背が高く、優しい感じですが歌うと低音の声が大きく響きました。先生の住まいが吹田なんて奥さんとも親しくなりました」と語っています。小代義雄さんは1989年10月、92歳で泉町の自宅で亡くなり、関西合唱団やたくさんの人々が集まり音楽葬で送られたといっています。

●参考資料「宣伝研究」日本機関紙出版センター
「大阪人形座の記録」阪本一房著

フォーカス

「福祉なくして成長なし」—革新勢力のスローガンではない。1970年9月、当時の佐藤栄作首相(もちろん自民党)が打ち出した理念だ。岡田知弘京都大学教授(「高度成長の過熱と終焉」「シリウス高度成長の時代2」)大月書店、2010年)によると、全国各地での公害問題の激化と公害訴訟などの反公害運動を背景に、この理念のもとで、公害規制の立法や企業責任を明確にした防止対策などを検討したという。

その後、佐藤内閣を引き継いだ田中角栄氏は、「福祉は天から降ってこない」と言い切り、「成長なくして福祉なし」と経済成長最優先の路線に踏み込んだ。だが、経済は成長しても福祉は前進せず、結局「成長しても福祉なし」が実状だった。留意すべきは、同様の考え方が現在も根強く政策思想として残っていることだと、岡田教授は指摘する。

吹田市でも1971年、御旅町の公害問題、学校や保育所不足などの都市問題と、その改善を求める住民運動を背景に、革新市政が誕生。住民と力を合わせて「福祉の吹田」「子育てするなら吹田」と評される行政水準を築いてきた。厳しい開発規制で良好な住環境を維持し、全国有数の住宅都市、商業都市として、安定的な財政基盤も確保した。「福祉なくして成長なし」を体現した吹田の歩みだ。

いま、吹田市長選挙を前に、橋下知事・維新の会は「大阪都」を、阪口市長は「関西州」、「東部拠点開発」を主張し、違い(?)を際立たせようとしている。が、両者とも「成長なくして福祉なし」派であることは同じである。いずれも住民生活よりも、大企業に「選んでもらえる」地域への改造に躍起だ。今日の「格差と貧困」の広がりを招いたのは経済成長最優先の政治だったことは誰もが知っている。「福祉」を辞書(「大辞泉」)で調べてみると、「公的配慮によって社会の成員が等しく受けることのできる安定した生活環境」とある。「福祉なくして成長なし」を理念とする市政、安定した生活環境の確保を吹田地域の経済活性化に結び、責任感あふれる市政への転換が望まれる。